

## フィンドレー大学への留学報告書 8月分

鈴木ひばり

私の幼いころからの夢であった留學生活が始まりました。この8月分の報告書にはアメリカでの生活はもちろん、出国する前の日本での心境も綴りたいと思います。

実際に留學が始まる前は不安ばかりでした。自分の夢であった留學が目前に控えているのに、ずっと憧れだった海外での生活が実現するというのに、

留學はキラキラしたものではありません。第一に莫大な費用がかかります。海外の大学で学び、海外で生活するということはお金がなければ実現しないことです。

そして、留學準備は想像の何倍も大変です。ビザを取らなければいけないし、アメリカであれば大使館に自分の足で赴かなければいけません。ビザがやっととれたと思ったら、入学手続きにも追われ、難しい単語が羅列している英語の書類やメールに目を通し、進めなければいけません。不手際があったり、円滑に進まないこともざらにあり、私は何度も何度もフィンドレー大学の人にメールをしました。もうフィンドレー大学の人とはメル友でした。

この時期は、精神的に余裕がなく、英語のメールが送られてくると、何か間違いを犯してしまったのかと心臓が止まりそうになりながら読んでいたほどです。

私が留學に行ったタイミングはコロナ禍による留學氷河期が終わり、何も情報がない中、留學に挑んだ方達の次だったので、前年度留學に行った方にたくさん話を聞くことが出来ました。それでもこんなに精神的なストレスを感じていたので前年度の人たちはアベンジャーズのように思えます。

アメリカ留學の出発の日は8月5日でした。この日付を見て勘のいい方は察せたいと思います。そうです、期末テストが終了した次の日です。私は家を引き払わなくては行けなかったため、引っ越しの準備にも追われていました。10ヵ月分のパッキングを渡航の2日前から始めるという余裕のなさ。出発前は人生で一番忙しく、心の余裕がない日々でした。

唐突ですが、私は日本が大好きです。日本語、日本の文学、日本の音楽、日本食、日本の友達、日本にいる家族。私の大好きは数えきれないほど日本にあります。心が荒れているときに留學と日本での生活を何度も自分の中で天秤にかけました。この留學にかかる費用、時間、価値、日本で生活した方がいいのではないかと何度も思いましたが、最終的に自分の中で固まる決意は「それでも留學に行きたい。」というものでした。

アメリカ留學に来て一ヶ月が経とうとしています。自分で下した留學に行くという決意を後悔したことは一度もありません。自分のなかで「自分が下した決断を正解にしなければいけない」という強迫観念のようなものもありますが、それでもこの一ヶ月は絶対に日本と

いう小さい島国で暮らしているだけでは味わえないものばかりです。

今、8月分の留学報告書を書いていることに、「もう一ヶ月経ったのか。」という気持ちもありますが、「まだ一ヶ月しか経っていない!？」という驚きの気持ちもあります。このまま一日が長くて充実している日々が続けば、アメリカで過ごす10ヶ月が50年くらいに感じてしまうのではないかと少し怯えています。

私は留学に来る前の不安で泣いていた私に「こんなに留学生活は楽しいから大丈夫だよ。」と教えてあげたいです。

と同時に、去年留学に行き、何もわからない私たちにたくさんの情報を与えてくださった方々に心から感謝しています。アメリカに着き、空港でどこに行けばいいのか、何時に行けばいいのか、何もわからなかった私たちに急に連絡したのに、大学の方に繋げてくださった方、これを読んでいるのでしょうか。本当にありがとうございました。

アメリカでの留学生活は一緒に留学に来てくれたみんな、去年留学をして様々なことを教えてくださった皆様、日本の友達、家族、たくさんの人に支えられながら生活しています。関わってくれている皆さんにどのように恩を返せばいいのか分かりませんが、この留学生活中に見つけていきたいです。

今回の留学報告書は、出国前のことや私の気持ちだけを綴って終わってしまいました。来月はアメリカでできるアクティビティや楽しいこと、生活について書いていければいいなと思います。

